

次世代のボカロ曲を探る～曲調と流行の関係は～

音楽班:和田 在真

Abstract

By setting a goal to increase the number of plays of VOCALOID songs, I researched what is like VOCALOID songs to be more popular from the perspective of song style. As a result of the first research, I found that song style has something to do with how the song can be popular. On the second research, I found that not every time the song becomes more popular even if I trace the latest trend.

要約

ボーカロイド楽曲の再生数の底上げという目標を設定し、どのようなボーカロイド曲なら人気になるかということをもとに曲調という観点から調査した。1つ目の調査では、確かに楽曲の曲調はその曲がどれだけ人気化に影響があることがわかった。しかし2つ目の調査では、最新の流行を追って楽曲を作ったとしても、必ずしも人気になるとは限らないとわかった。

1. はじめに

近年のボカロ界は一時期の低迷期が嘘のようにメジャーなジャンルと化しており、TikTok、Instagram Reel等でBGMとして使用されたり、元ボカロPのシンガーソングライターの方々が世界中で活躍されたりとボカロ文化が世間に浸透しつつある中、こういったボカロ曲なら世間に広く受け入れられやすいのかを、曲調の観点から考察しようというものである。

2. 実験方法

文献調査及び楽曲投稿

《実験①》

- 1 クリプトン・フューチャー・メディア社の初音ミクV2発売年の2007年以降の各年度のニコニコ動画、YouTubeにおける再生回数上位曲を無造作に2曲(2007年度のみ1曲)抽出する。
- 2 抽出した楽曲を①作曲者、②BPM、③使用ボカール、④楽曲ジャンルの観点から流行の原因を分析する。

《実験②》

- 1 実験①の分析結果をもとに1曲2:30前後のボーカロイド楽曲を1曲作曲し、YouTubeに投稿する(公正な分析のため、事前通知なしで投稿する)。
- 2 再生回数の伸び、寄せられたコメント、高評価率をもとに実験①の結果が正しかったのかを分析する。

3. 結果

《実験①》

流行する楽曲とその曲調には、ある一定の関係が見られ、ある程度の連続性も見られた。

《実験②》

実際に投稿してみたところ、それ以前に投稿した「曲調について未検討の状態で投稿した楽曲」と比して一定の効果はあったが予想に反してその効果はごく小さなものであった。

4. 考察

結果より、現在の流行から今後の流行をある程度予測することは十分可能であると考えられるが、流行する曲のそのタイミングについては大衆の感情が対象であるためもはや予想はできなくなっていると考えられる。また、ここ数年で流行した＝一定以上の再生回数楽曲のほとんどが有名作曲家による楽曲、若しくは著名なイラストレーターの手により描き下ろされたミュージックビデオで投稿された楽曲であることから、その楽曲がどれだけ人気になるのかは、曲調よりも「誰がその楽曲にかかわっているのか」ということが重要であると考えられる(要検証)。

5. 結論

確かに楽曲の「バズ」とその曲調には関連性が見られたが、だからといって闇雲に流行りを追いかけるだけでは再生回数には直結しないことが判明した。今後はもっと別の角度からの検証が必要だと考えられる。

6. 今後の展望

今後は同一ジャンル、同一ボーカルで楽曲を制作し、それぞれ異なる絵柄のサムネイル/ジャケット画像で投稿した際にどうなるのか、また楽曲制作者が有名でなくとも著名なイラストレーターが参加した楽曲なら人気になるのかも検証が必要である。

7. 参考文献および参照Webページ

「Kiite再生回数ランキング」2007～2024 <https://kiite.jp/> 閲覧日時: 2024/9/10